

事務事業評価シート

1 基本情報

		事業番号	010301010200		事業の種類	4		
年度	26	事務事業名	相生っ子学び塾事業		予算事業名	相生っ子学び塾事業 優先度 4		
まちづくり目標		健やかな成長と人間力をのばせるまち		担当部局名	教育委員会生涯学習課			
施策名(中)		いつでもどこでも学べる環境をつくる		担当課長	西角 隆行		担当者名	山本 晃嗣
取組み事項		生涯にわたって学べる体制を整備する		実施計画への記載			主要事業の指定	有
実施計画事業名								
根拠法規及び関連法規								
事業の目的	誰のために(具体的に)	市民						
	誰(何)を対象として	市内小学校5, 6年生及び保護者						
	意図(どのような状態にしたいのか)	将来を担う子どもたちに生きる力を付けさせる						
	事業の全体年度	事業着手年度	(年度)		事業完了予定年度	(年度)		

2 事業の概要 Do

実施の概要		地域のボランティアの参加により、家庭の経済的負担なしで希望者が参加でき、対象を5、6年生とした国語・算数、英語の講座を開設する。					
活動実績	項目	単位	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度計画	
	開設日数(国・算)	回		201	190	200	
	開設日数(英)	回		26	27	79	
	開設日数(珠算)	回				18	

3 投入資源

		会計区分	一般会計					事業費単位:円	
インプット指標		24年度決算	25年度決算	前年比	26年度決算	前年比	27年度予算	前年比	備考
人員	部長以上職員	0.000	0.026	-	0.027	104	0.026	96	
	参事以下職員		1.080	-	0.772	71	0.420	54	
	臨時職員		0.040	-	0.268	670	0.688	257	
支出内訳	人件費		8,716,930	-	6,991,229	80	5,366,594	77	
	事業費		3,954,398	-	4,163,679	105	5,223,000	125	
	合計		12,671,328	-	11,154,908	88	10,589,594	95	
財源内訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金			-	1,203,000	-	1,364,333	113	
	市債			-		-		-	
	その他		116,000	-	83,200	72	120,000	144	
	一般財源		12,555,328	-	9,868,708	79	9,105,261	92	
合計		12,671,328	-	11,154,908	88	10,589,594	95		

※ 事業の進捗状況

		事業費単位:円			
項目	24年度	25年度	26年度	27年度	/
全体進捗率	事業費累計				
	進捗率				

4 評価指標

【有効性】

指標名1		児童のべ登録数							
指標説明(式)		(国語・算数登録)+(英語登録)+(珠算登録H27)							
指標単位	区分	24年度	25年度	前年比	26年度	前年比	27年度(計画)	前年比	備考
人数	目標		250	-	200	80.0	250	125.0	
	実績		209	-	193	92.3			
指標名2		講座延開設回数							
指標説明(式)		(国語・算数延開設)+(英語延開設)							
指標単位	区分	24年度	25年度	前年比	26年度	前年比	27年度(計画)	前年比	備考
数	目標		237	-	226	95.4	297	131.4	
	実績		227	-	217	95.6			

【効率性】

指標名1		児童一人あたりコスト							
指標説明(式)		(事業費+人件費)÷児童のべ登録数							
指標単位	区分	24年度	25年度	前年比	26年度	前年比	27年度(計画)	前年比	備考
円	目標		53791	-	63655	118.3	42358	66.5	
	実績		60628	-	57797	95.3			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	24年度	25年度	前年比	26年度	前年比	27年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(26年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	担当課評価
妥当性	目的の妥当性	将来を担う子どもたちの支援は不可欠である。	4
有効性	期待する目標	家庭の経済的負担なしで希望者が参加でき、希望者に勉強できる機会を提供できた	4
	成果の向上	定期的な講師の打合せにより、有効な授業形態を作り上げていく体制となった。	
効率性	執行体制の効率性	効果を得るためには学校との連携を拡大していく必要がある	3
進捗状況	事業計画に対する進捗状況	どの科目も2年間で定着することができた。	4

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
効率性	執行体制の効率性	関係部署、学校の連携が不可欠であるため、専任コーディネーターの配置



配点	32.5
総合評価	25

7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた27年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
有効性	成果目標(改善)達成度	事業の拡大(珠算導入、英語を学校で実施)専任コーディネーターの配置

(2) 28年度以降の改革改善内容

区分	内容
重点事項	対象(児童)の拡大及び受講できる機会(講座種類)を増やしていく必要があると思われる
見直事項	
新規事項	
方向	継続 成果 拡大 総コスト 維持